

2025 大阪大学（前期）英語（外国語学部以外）概評

出題分析		
試験時間 90分※ ¹	配点 ※ ²	大問数 4題
分量（昨年比較）〔減少 同程度 増加〕		難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 難化 〕
<p>【概評】</p> <p>今年は外国語学部と外国語学部以外の共通問題がなくなり、特に英文和訳と和文英訳が難化した。大阪大学の英語（外国語学部以外）は、Ⅰ英文和訳、Ⅱ長文読解、Ⅲ自由英作、Ⅳ和文英訳の4つの大問から成る。Ⅰでは、4～5行程度の英文を和訳する問題が2問出題される。Ⅱでは、選択問題も出題されるが、記述問題で内容説明が出題されることが多い。今年も下線部和訳の出題はなかった。ただし、今年40語から50語の英語で内容を説明する新傾向の問題が出題された。Ⅲでも、阪大では珍しく、グラフの内容を読み取る自由英作が出題されている。指定語数は、今年も80語だった。Ⅳでは、3行程度の和文を英訳する問題が学部共通で1つ、もう1つは文学部で4～5行、文学部以外で3行程度のものが出題される。</p>		

※1 文学部は105分。 ※2 学部・学科などにより異なる。詳細は募集要項参照。

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
Ⅰ	英文和訳 (A)「スポーツの効用」 ○81[下線部:40]語 (昨年)57[57]語	(A) スポーツ選手におけるスポーツの効用を述べた文章。主節の後に付帯状況を表す with で始まる長い副詞句があるので自然な日本語訳するには工夫が必要。	(A) 標準
	(B)「パントマイムが伝えること」 ○92[下線部:47]語 (昨年)98[57]語	(B) パントマイムの鑑賞者がそこに何を読み取るかを述べた文章。抽象的であることもあり、意味を掴むのが難しい。文末の that は関係節で、先行詞は objects 以降の3つの名詞。	(B) やや難
Ⅱ	長文読解 「自然保護こそが自然災害を防ぐ」 ○語数：711語 (昨年)801語	自然そのものが持続力や回復力を持つ最も優秀なインフラであると認識することが、自然災害を防ぐ最も有効な手段であるという内容。設問(3)の「英語で」説明させる新傾向問題では、本文の主旨を把握し、下線部が数行上の This ~ very wrong と同内容であることに気付くことで高得点が望める。ちなみに、阪大の過去問では2003年度の大問Ⅱで類似テーマが出題されており、代ゼミのテキストでも取り上げている。(2024年1学期「阪大英語」Lesson 10収録)	やや難

設問別講評			
III	自由英作文 「日本を含む特定国の博士号取得者数の推移について」	日本を含む特定国の博士号取得者数の推移についてのグラフが与えられ、日本のおかれている状況について述べたうえで、その原因や改善案を述べる問題。原因を述べるなら、日本の博士号取得者が増えないのは、一般企業に就職するのが難しくなるから、などと書くとよいだろう。	やや難
IV	和文英訳	(A) 「どのように語るかという「形」が」が特に訳出しづらい。「形」とは「形式」のことなので解答例では style とした。 (B) (イ)「着地点を～決めておき」「お話全体～持ち帰ってくれる」などが難所。 (ロ)「食が～なったら」を、解答例では「食がその目的の達成のみに還元されたら」と置き換え、if eating is reduced to merely fulfilling that purpose とした。	(A) やや難 (B)(イ) やや難 (B)(ロ) やや難

設問構成（設問数・形式・内容）												
大問番号	設問数	選択式						記述式				
		同義選択	空所補充	内容説明	内容一致	主旨把握	その他	和訳	内容(理由)説明	自由英作	英訳	その他
I	2							2				
II	6	5		3		1			2			1
III	1									1		
IV	2										2	

合格のための学習法

下線部和訳、長文読解、自由英作文、和文英訳と国公立大学型入試問題のほぼすべての形式が出題される阪大英語で合格点を取るには、英文の内容を正確に読み取る力と日本語の意味を正しく伝える英文を書く力を身につけることが必須である。まずは1年を通して難易度の高い英文を一語一句おろそかにせず、正確に解読し、実際鉛筆を持って訳文を書く訓練を積んでいくこと。同時に標準的な和文英訳問題に取り組み、正しい英語を書く力を鍛えていこう。夏期講習からは長文読解問題を時間内に要領よく解く練習と自由英作文の基礎練習も取り入れよう。2学期以降は、過去問を時間内に解く練習を中心に、正確な語彙力、文法的知識、構造分析力、文脈把握力を習得しつつ、日英双方の正しい表現力を鍛えていってほしい。知らない語句の意味を前後関係から類推する練習も積んでいこう。